

21

〔漢文と書き下し文〕

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔青森〕

〔漢文〕

漢人^ニ有^リ適^ニ呉^ニ。呉人^ニ設^レ筭^ヲ、問^フ是^レ何^ノ物^ト。語^リ曰^{ハク}、「竹^ト也。」婦^ニ煮^ル其^ノ床^ヲ簀^ヲ而^{シテ}不^レ熟^セ、乃^チ謂^フ其^ノ妻^ニ曰^{ハク}、「呉人^ハ輓^ヲ、欺^レ我^ヲ如^シ此^ノ。」

〔笑林〕による

〔書き下し文〕

漢人^ニに呉^ニに適^スくもの有り。呉人^ハ筭^ヲを設^ケれば、問^フ「是^レ何^ノ物^トぞ。」と。

〔呉の国の人だ。〕

〔漢の国の人だ。〕

語^リて曰^{ハク}、「竹^{ナリ}なり。」と。婦^リて其^ノ床^ヲ簀^ヲを煮^ルるも熟^セせず、乃^チ其^ノ妻^ニ曰^{ハク}、「呉人^ハ輓^ヲ、欺^レ我^ヲ如^シ此^ノ。」と。

〔竹です。〕

〔煮えなかつたので。〕

の妻^ニに謂^フひて曰^{ハク}、「呉人^ハは輓^ヲたり、我^ヲを欺^クこと此^ノのごとし。」と。

〔このようだ。〕

〔注〕床^簀…ベッドに敷くための竹で編んだ敷物 輓^ヲ…人を偽り、欺くこと

〔必〕(1) 「有^リ適^ニ呉^ニ」に、【書き下し文】を参考にして、返り点を書きなさい。

有^リ 適^ク 呉^ニ

〔類〕(2) 「問^フ」の主語として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

い。

ア 作者 イ 漢人 ウ 呉人 エ 妻

〔3〕 【漢文】にある「漢人」と、次の【資料】にある「宋人」について、両者に共通する内容として最も適切なものをあとから一つ選び、記号で答えなさい。

い。

〔資料〕

宋人^ニに田^ヲを耕^ス者^有り。田^中に株^有り、兔^走りて株^ニに触^レれ、頸^ヲを折^ルりて死^ス。因^リて其^ノ未^ズを積^テて株^ヲを守^リ、復^タ兔^ヲを得^ンと冀^ムふ。
（宋の国の人で畑を） （畑の中に木の切り株があり） （突き当たり）
（ここで自分のすきを放り出して） （切り株の番をし） （再び） （手に入れようと待ち望んだ）
 兔^復た得^べからずして、身^ハは宋^國の笑^トと為^レり。
（兔を復せば（手に入れることができます）（彼自身は）

〔韓非子〕による

ア 両者とも自分の思い違いに気づいていない。
 イ 両者とも自分の失敗を人のせいに行っている。
 ウ 両者とも古い習慣を改めることができない。
 エ 両者とも予想通りになって満足している。

22

〔漢文と書き下し文〕

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。漢文を書き下し文に書き改めたもので、陳の国を攻め取ろうと考えた楚の国の莊王が、使者に陳の国の様子を視察させ、その結果を報告させた場面のものです。〔群馬〕

使者曰^{ハク}、「陳^ハは伐^ツべからざるなり。」と。莊王曰^{ハク}、「何^ノ故^ゾ。」

と。対^シて曰^{ハク}、「其^ノ城^郭は高^ク、溝^壑は深^ク、蓄^積は多^ク、其^ノ国

は寧^シし。」と。王曰^{ハク}、「陳^ハ伐^ツべきなり。夫^レ陳^ハは小^國なり。而^{シテ}其^ノ蓄

積^多し。蓄^積多^クければ、則^チ賦^斂重^ク、賦^斂重^クければ、則^チ民^上を怨^ムむ。

城郭高く、溝壑深ければ、則ち民力罷れん。」と。兵を興して之を伐ち、遂に陳を取る。

〔説苑〕による

(注) 城郭…城壁 溝壑…城の堀 蓄積…備蓄 寧し…穏やかである
 夫れ…そもそも 賦斂…租税 上…陳の王のこと 罷…「疲」に同じ

必(1) 「兵を興して之を伐ち」は、「興 兵 伐 之」を書き下し文に書き改めたものです。「兵を興して之を伐ち」という読み方になるように、「興 兵 伐 之」に返り点を書きなさい。

興^{シテ} 兵^ヲ 伐^チ 之^ヲ

發(2) 「其の城郭は高く、溝壑は深く、蓄積は多く」について、次の表は、使者の報告と、それに対する荘王の考えをまとめたものです。
 ①、②にあてはまる内容を、それぞれ現代語で簡潔に書きなさい。

| | | | |
|---------------------|--|---------------------------|--|
| 使者の報告 | | 荘王の考え | |
| 「其の城郭は高く、溝壑は深く」 | | ① | |
| 「蓄積は多く」 | | ② | |
| 結論 「陳は伐つべからざるなり」 | | 結論 「陳伐つべきなり」 | |
| | | (そうであるならば) 租税が重いはずであり、 | |

①

②

(3) 本文で述べられている内容についての説明として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。
 ア 使者は、平和を維持するために戦いは避けるべきだと荘王を説得した。
 イ 荘王は、使者の報告にうそが含まれることを鋭く見抜くことができた。
 ウ 使者は、荘王の判断に納得がいかず、陳への攻撃には参加しなかった。
 エ 荘王は、陳が小国であることを踏まえ、陳の状況を論理的に推測した。

23

〔漢詩と古文〕
 次のⅠ、Ⅱは、楊香という人物について書かれた漢詩と古文です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。
 〔福井〕

楊 香
 〔書き下し文〕

深 山 逢 白 額
 深山白額に逢ふ

努 力 に 脛 風 を 搏 す
 努力に脛風を搏す

父 子 俱 に 恙 無 から ん
 父子俱に恙無からん

脱 身 を 饑 口 の 中 を 脱 る
 身を饑口の中を脱る

〔現代語訳〕

深い山の中で白い額の虎に出会った。
 力を尽くして、ものすごい鼻息でかかってくる虎を討ちとった。
 父子はともに無事で助かった。
 身を全うして、餌食をむさぼる口から逃れることができた。

II

楊香は一人の父を持てり。ある時、父とともに山中へ行きしに、たちま

ち荒き虎にあへり。楊香、父の命を失はんことを恐れて、虎を追ひ去らん

としはべりけれども、かなはざるほどに、天の御あはれみを頼み、「こひ

ねがはくは、わが命を虎に与へ、父を助けてたまへ。」と、こころざし深

くして祈りければ、さすが天もあはれと思ひたまひけるにや、今まで、た

けきかたちにて、取り食らはんとせしに、虎、にはかに尾をすべて、逃げ

退きければ、父子ともに、虎口の難をまぬがれ、つつがなく家に帰りはべ

るとなり。これ、ひとへに、孝行のこころざし深き故に、かやうの奇特を

あらはせるなるべし。

(「御伽草子集」による)

必(1) 「脱身饒口中」について、「書き下し文」を参考にして、返り点を

脱身饒口中

必(2) 「こひねがはくは」を現代仮名遣いに直して書きなさい。

Blank box for writing the modern transcription of the text.

(3) 「虎を追ひ去らんとしはべりけれども、かなはざるほどに」の楊香の置か

- ア 安泰 イ 好機 ウ 窮地 エ 混迷

Blank box for selecting the correct answer.

(4) 山中で虎と出会ったとき、楊香はどのような行動をとりましたか。Iの

漢詩とIIの古文における違いについて、解答欄に合うようにそれぞれ現代

語で書きなさい。

I 漢詩では、

Blank box for writing the answer for I.

II 古文では、

Blank box for writing the answer for II.

(5) 「父子ともに、虎口の難をまぬがれ、つつがなく家に帰りはべるとなり」

について、作者は父子ともに無事に帰り着くことができた理由をどのように

考えていますか。「〜と考えている。」に続くように、三十文字以内の現代語で

Blank box for writing the answer for (5).

とを考えている。

24

〔漢詩〕

次の漢詩は、李白が友人の汪倫に対して、感謝の思いを詠んだもので

す。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

〔岐阜〕

贈汪倫

汪倫に贈る

李白 乘舟将欲行

李白舟に乗って

忽聞岸上踏歌声

将に行かんと欲す

桃花潭水深千尺

忽ち聞く岸上踏歌の声

不及汪伦送我情

桃花潭水深さ千尺

及ばず汪倫我を送るの情に

(注) 踏歌の声…足を踏み鳴らし、拍子をとって歌う声
 桃花潭…汪倫が住む村を流れる川のこと

頻(1) この漢詩の形式として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 五言絶句 イ 五言律詩
 ウ 七言絶句 エ 七言律詩

必(2) 「不及汪倫送我情」を「及ばず汪倫我を送るの情に」と読むことができるように、返り点を書きなさい。

不 及 汪 倫 送 我 情

(3) 次の文章は、この漢詩の鑑賞文の一例です。A、Bに入る最も適切な言葉、それぞれ現代語で書きなさい。ただし、字数はAは五字以内、Bは五字以上十字以内で書きなさい。

この詩は、「送別」をテーマにしている。村を舟で出発しようとした李白は、Aで汪倫が村人たちと一緒に別れを惜しんで歌う姿を見て、汪倫の友情の深さは、村を流れる桃花潭のBのものであると感じ、汪倫に感謝している。

| | |
|----|---|
| B | A |
| 5 | |
| 10 | |

25 「古文」

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈京都〉

野は菊・萩咲きて、秋のけしき程、しめやかにおもしろき事はなし。心ある人は歌こそ和国の風俗なれ。何によらず、花車の道こそ一興なれ。奈良の都のひがし町に、しをらしく住みなして、明暮茶の湯に身をなし、興福寺の、花の水をくませ、かくれもなき楽助なり。

ある時この里のござかしき者ども、朝顔の茶の湯をのぞみしに、兼々日5を約束して、万に心を付けて、その朝七つよりこしらへ、この客を待つに、大かた時分こそあれ、昼前に来て、案内をいふ。

亭主腹立して、客を露路に入れてから、挑灯をともして、むかひに出るに、客はまだ合点ゆかず、夜の足元するこそ、をかしけれ。あるじおもしろからねば、花入りに土つきたる、芋の葉を生けて見すれども、その通10りなり。兎角心得ぬ人には、心得あるべし。亭主も客も、心ひとつの数寄人にあらずしては、たのしみもかくるなり。〔西鶴諸国ばなし〕による

(注) しをらしく…上品に 花の水…「花の井」という、井戸からくんだ名水

楽助…生活上の苦労がない人 ござかしき…利口ぶって生意気な

朝顔の茶の湯…朝顔が咲く時間に行われる茶の湯 七つ…四時頃

案内…取り次ぎの依頼 露路…茶室に至るまでの庭

見すれども…見せたが 数寄人…茶の湯に深い愛着を持つ人

頻(1) 「花車の道こそ一興なれ」の解釈として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 風流の道は心ひかれるものだ
 イ 風流の道は騒がしいものだ
 ウ 風流の道は新たにつくるものだ
 エ 風流の道は興ざめなものだ

頻(2) 「住みなして」、「くませ」、「いふ」、「入れて」のうち、主語が一つだけ他と異なるものがあります。その異なるものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 住みなして イ くませ ウ いふ エ 入れて

(3) 「万に心を付けて」の解釈として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 多くの人に手伝ってもらって

イ 十分な報酬を期待して

ウ あらゆることを面倒に思っ

エ さまざまなことに配慮して

(4) 「をかしけれ」は歴史的仮名遣いで書かれています。これをすべて現代仮名遣いに直して、平仮名で書きなさい。また、次のうち、波線部が現代仮名遣いで書いた場合と同じ書き表し方であるものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 言ふべきにあらず イ 定まらずひらめいたり
ウ 草の戸も住み替はる エ 松島の月まづ心にかかりて

(5) 次の会話文は、悠一さんと絵里さんが本文を学習したあと、本文について話し合ったものの一部です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

悠一 本文から、もてなす側ともてなされる側が、茶の湯を好む者として「A」でないことが読みとれるね。
絵里 そうだね。Bとことから、本文に登場する客のような「C」を相手にするときには、もてなす側が、そのような者を相手にしているのだと理解しておく必要があると分かるね。
悠一 もてなす側ともてなされる側が「A」にすることができなければ、茶の湯の味わいも十分ではなくなるんだね。

(a) A、Cに入る最も適切な表現を、本文中からそれぞれ四字で書き抜きなさい。

A [] [] [] []
C [] [] [] []

(b) Bに入る最も適切な表現を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 客が「朝顔の茶の湯」を希望したのに遅い時間に来たことに対し、亭主は立腹して遠回しに客を非難するようなふるまいをしたが、客に通じなかった

イ 客が日付を勘違いしたうえに反省する様子がないことに対し、亭主は腹を立てて追い返そうとさまざまな行動をとったが、客は気づかなか

ウ 客が「朝顔の茶の湯」を頼んだのに昼前に来たことに対し、亭主は怒りが収まらずもてなしながらも声を荒げて叱ったが、客は聞き入れなかった

エ 客が大変早い時間に来たうえに平然とした様子であることに対し、亭主はいらだちを覚え客を困らせるような態度をとったが、客に伝わらなかった

26

〔古文〕

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈兵庫〉

*かまぐらの中書王なかつうおうにて御鞆ごまろありけるに、雨降りて後、未だ庭の乾かざりければ、鎌倉中書王の御所で鞆の会が相談さだますることが

ば、いかげんと沙汰さたありけるに、佐々木ささきの隠岐入道おきのちゆう、鋸のこぎりの屑くずを車くるまに積みみて、おほく奉りたてまつりたりければ、一庭に敷かれて、泥土でいどのわづらひなかりけり。

「取り溜めたけん用意、ありがたし」と、人感ひとあはれじ合あへりけり。

この事ことをある者の語り出いでたりしに、吉田よしたの中納言ちゆうなごんの、「乾き砂子の用意ようい5
やはなかりける」とのたまひたりしかば、恥はづかしかりき。いみじと思ひ
おっしゃったので

ける鋸のこぎりの屑くず、いやしく、異様ことやうの事ことなり。庭にわの儀ぎを奉行ていぎする人、乾き砂子を

設くるは、故実なりとぞ。

(兼好法師「徒然草」による)

(注) 鎌倉中書王：後嵯峨天皇の皇子、宗尊新王。鎌倉幕府の第六代将軍

御鞠：蹴鞠。数人が鞠を蹴り、地面に落とさないように受け渡しする遊び
庭の儀を奉行する人：庭の整備を担当する人
故実：古くからのしきたり

① 「おほく」を現代仮名遣いに改めて、すべてひらがなで書きなさい。

(2) 「わづらひ」の意味として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 損失 イ 病気 ウ 支障 エ 不足

(3) 「感じ合へりけり」の説明として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 庭の状態に合わせて砂ではなくおがくずで対応したらしい入道の判断力に感心している。
- イ いざというときに備えておがくずを集めておいたのであろう入道の心がけに感心している。
- ウ おがくずを選び去るために車を準備していたのであろう入道の心配りに感心している。
- エ 氣を利かせてすぐに乾いた砂を用意させたらしい入道の機転と行動力に感心している。

(4) 本文における筆者の考えとして最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 時代の移り変わりとともに、人々のものの見方も変わっていく。
- イ ものを教わるにしても、相手を選ばないと恥をかくことになる。
- ウ 人の言うことを真に受けていると、容易にだまされてしまう。
- エ 知識が不足していると、ものごとの価値を見誤ることになる。

27 「古文」

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈愛媛〉

*大雅が、かつて淀侯の金屏風をかきけり。謝礼として使者来たりけるに、台所の入口より古紙書物など取り散らし置きて、さらに上り所なし。古紙をかたよせ、使者を通しけるに、謝礼として三十金をたまふ。大雅、礼を述べて、包みのまま床の上へ置きたり。その夜、盗人、床の側の壁を切り抜きて、包金を持ち去れり。

翌朝、妻、壁を切り抜きたるを見て、「定めて盗人のしわざならん。昨日、淀侯よりたまはりたる金は、いづくへ置きたまふや。」と言ふ。大雅、さらに驚く気色なく、床の上へ置きたり。無くば、盗人持ち去りたるならんと言ふ。門人も来たり、この体を見て、「先生何故にこのやうに壁を切り抜きたまふや。」と言へば、昨日の夜、盗人入りて、淀侯より謝礼にもらひたる金子を持ち去りたるさうと言ふ。門人の言はく、「壁あのみまにては見苦し。つくろひたまへ。」と言へば、かへつてさいはひなり。時は今、夏日にて、涼風を引き入るるによるし。また、外へ出るに、戸を開くのうれへなしと言ふとぞ。

(注) 大雅：江戸時代の画家である池大雅

淀侯：淀藩(現在の京都府の一部)の藩主 金子：お金
うれへ：煩わしいこと

〔逢原記聞〕による

①

「たまふ」は「お与えになる」という意味ですが、誰が与えたのですか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 大雅 イ 淀侯 ウ 妻 エ 門人

(2) 本文中には、大雅が言った言葉が三か所あります。その中で、二番目に言った言葉を探し、はじめと終わりの三字を書き抜きなさい。

□ □ □ □ □ □ □ □ □

次の会話は、本文を読んだ誠司さんと菜月さんが、先生と一緒に、大雅の人物像について話し合った内容の一部です。A、B、Cに入る適切な言葉をそれぞれ書きなさい。ただし、Aは五字で、Bは二字で、最も適切な言葉をそれぞれ本文中から書き抜くこと。また、Cは三十字以上四十字以内の現代語で書くこと。

C

誠司さん 「家の中が散らかっていたり、せつかくもらった謝礼を、

A 床の上に置いたりしているところや、切り抜かれた壁を修理せずに済ませようとしているところから、大雅はいかげんなどころがある人物だと考えました。」

菜月さん 「私は、細かいことにこだわらない、おおらかな人物だと考えました。家の中が散らかっているのは、絵をかくことに没頭しているからで、謝礼に関しては、なくなっても、

B 様子が無いことから、お金に執着していないのだと思います。」

誠司さん 「切り抜かれた壁を修理しなかった点については、どうですか。」

菜月さん 「切り抜かれた壁については、C と言っているから、そうなってしまうことにくよくよせず、前向きに捉えようとしたことだと思います。」

先生 「大雅は、江戸時代を代表する画家です。さまざまな捉え方ができますが、いずれにしても、芸術に対して一心に取り組むことができる人物だったからこそ、多くのすばらしい作品を残せたのでしょね。」

A

Blank box for answer A

B

Blank box for answer B

C

Grid for answer C

28

〔古文〕

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔佐賀〕

禅師、尊像を造らむが為に、京に上る。財を売って既に金丹等の物を買

ひ得たり。還りて難波の津に到りし時に、海辺の人、大亀を四口売る。禅

師、人に勧めて買ひて放たしむ。即ち人の舟を借りて、童子を二人将て、

共に乗りて海を渡る。日晩れ夜深けぬ。舟人、欲を起し、備前の骨嶋の辺

に行き到り、童子等を取り、人を海の中に擲げき。然る後に、禅師に告げ

て云はく、「速に海に入るべし」といふ。師、教化すと雖も、賊猶し許さ

ず。此に於て、願を發して海中に入る。水、腰に及ぶ時に、石の脚に当り

たるを以て、其の暁に見れば、亀の負へるなりけり。其の備中の海の浦

海の辺にして、其の亀三たび領きて去る。うたがはくは、是れ放てる亀の

恩を報ぜるならむかと。

〔注〕京、難波、備前、備中…(4)の【地図】を参照

〔日本霊異記〕による

10

必(1)

「うたがはくは」を現代仮名遣いで書きなさい。

Blank box for writing the answer to the reading comprehension question

(2) ①「速に海に入るべし」といふ」とありますが、この説明として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。
ア 先に海の中に逃げた童子が、禪師を逃がすため、「急いで海に入ってください」と言っている。

イ 舟に乗り合わせた人々が、禪師を避難させるため、「すぐに海に入った方がよい」と言っている。
ウ 危険を察知した禪師が、賊となった舟人から逃げるため、「急いで海に入ろう」と言っている。
エ 賊となった舟人が、自ら禪師を海に投げ込むことを避けるため、「すぐに海に入れ」と言っている。

(3) ②「石の脚に当りたる」とありますが、「石が脚に当たった」とは、実際には禪師がどのような状況であったということですか。次の□にあてはまる言葉を、十字程度で書きなさい。

禪師が □ 状況。

| |
|----|
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| 10 |
| |
| |

(4) ④次に示すのはこの文章についての先生とAさんの【対話】及び【地図】です。□X、□Yにあてはまるものとして最も適切なものをあとからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

【対話】

先生 本文にはいくつかの地名が出てきますが、本文における禪師の旅はどのようなものだったのでしょうか。
Aさん 禪師は、□Xののだと思います。
先生 そうですね。途中で、賊となった舟人に襲われましたが、亀の恩返しによって禪師が救われたという話です。この話にはどのような教訓があると思いますか。

Aさん 私は、□Yがあると思います。
先生 そうですね。ほかにも似た話があるので、図書館で調べてみてはどうですか。

【地図】

□X

ア 仏像を造るための道具を求めするために、備前から難波まで舟で行き、そこから京へ向かった
イ 仏像を造るための道具を求めするために、備中から舟に乗り、難波を経由して京へ向かった
ウ 仏像を造るための道具をそろえて、京から難波へ行き、そこから舟に乗って備前まで行った
エ 仏像を造るための道具をそろえて、京から備前へ行き、そこから舟に乗って備中まで行った

□Y

ア 禪師から受けた恩を亀が返したように、受けた恩への感謝を忘れないことが仏道を信じる心につながるという教訓
イ 亀に姿を変えた仏の加護によって禪師が旅を無事終えたように、日頃から仏道を信じる心が大切だという教訓
ウ 禪師が亀を助けたために無事に仏像を造ることができたように、良い行いには良い報いが現れるという教訓
エ 禪師が施した恩によって亀が海中で禪師を助けたように、自分の行いに応じた報いが現れるという教訓

□